

新たな観光振興財源の検討

- 令和8年度のスケジュール . . . 1
- 本県観光の状況と課題 . . . 2～8
- 新たな観光振興財源の必要性 . . . 9～11

令和8年8月3日

静岡県スポーツ・文化観光部観光政策課

令和8年度のスケジュール

静岡県における持続可能な観光振興施策の実現に向けて、観光振興財源検討委員会を設置し、新たな観光振興財源に関する検討を進める。

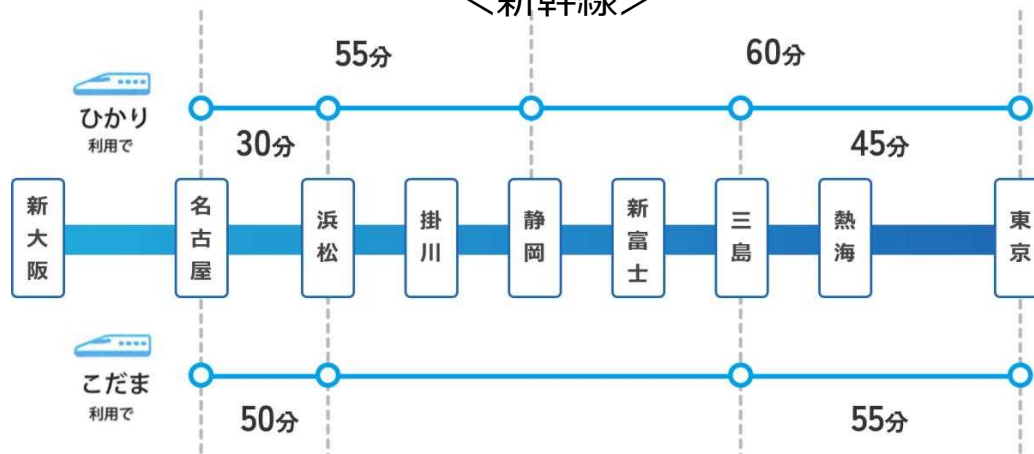
時 期	内 容
8月3日	第1回検討委員会 （本県観光の状況・課題、新たな財源の必要性）
9月	市町、観光事業者等との意見交換
9～10月	第2回検討委員会
11～12月	市町、観光事業者等との意見交換
1月	第3回検討委員会
2月	市町、観光事業者等との意見交換
3月	第4回検討委員会

本県の観光資源

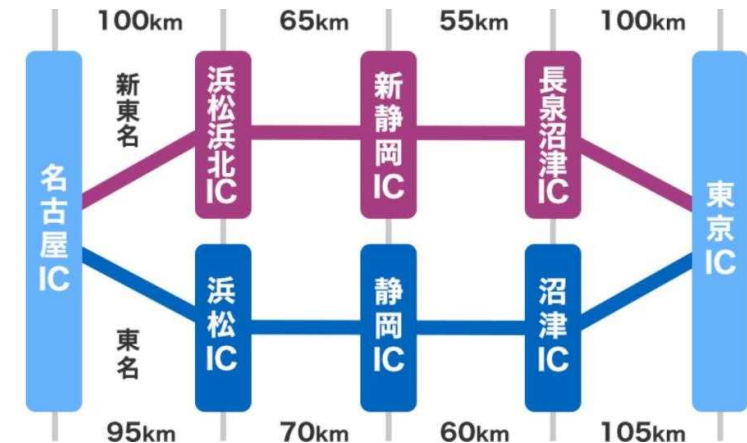
- ・東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪などを巡るゴールデンルート上に立地
- ・新幹線、東名・新東名、富士山静岡空港、清水港など広域交通ネットワークが充実
- ・温暖で穏やかな気候、豊かな自然、多彩で高品質な食材、豊富な温泉、歴史文化資源 など



＜新幹線＞



＜高速道路＞



本県観光の状況（旅行消費額）

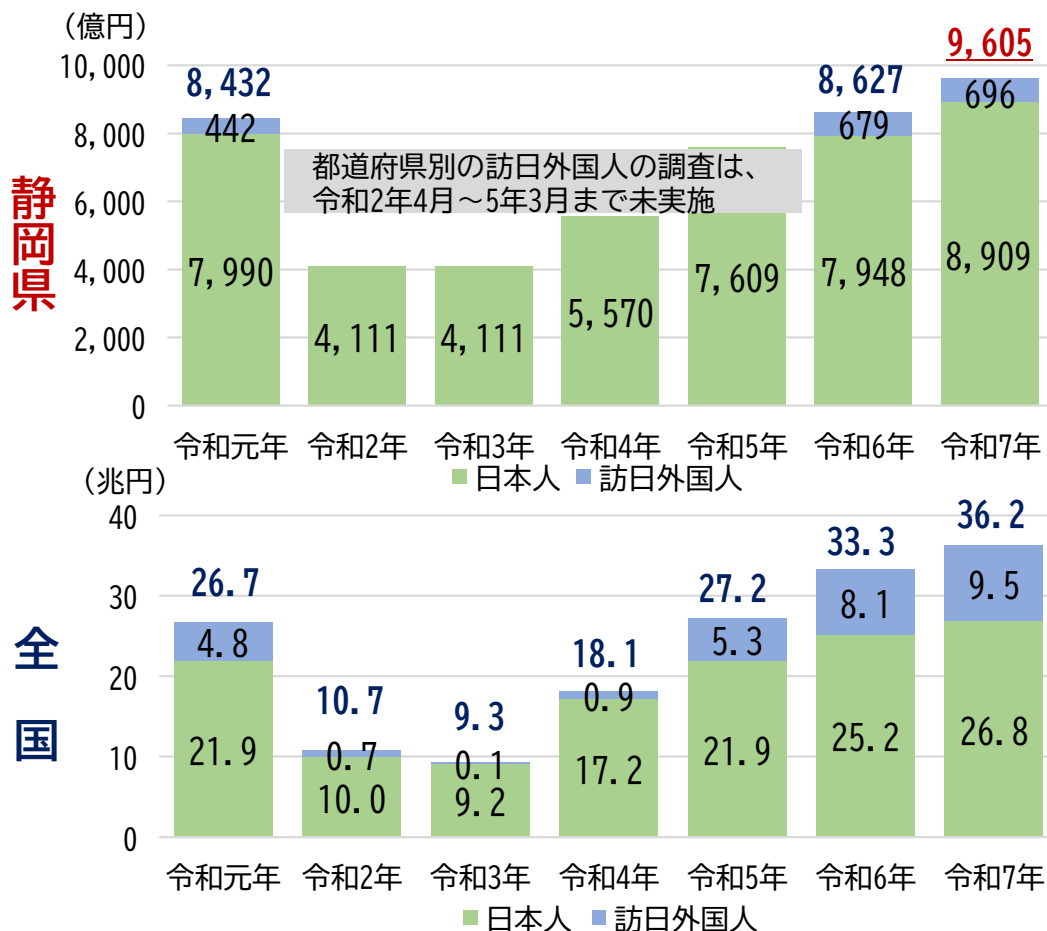
- ・ 本県の旅行消費額(日本人＋訪日外国人)は、9,605億円(前年比112%)で、全国8位
- ・ 一方で、訪日外国人旅行消費額は、696億円(前年比103%)で、全国14位と伸び悩み

<課題> ・ 「数(人数)」から「質(単価・内容等)」への本格的な転換が必要

・ 国 内：新たな市場や旅行ニーズの開拓、需要喚起が必要

・ 海 外：欧米豪など消費単価の高い市場・客層へのアプローチ、リピーターの獲得が必要

全国・静岡県 経年比較



都道府県別（令和7年）

日本人＋訪日外国人		(億円)	
順位	都道府県	実績	宿泊税
1	東京都	47,897	○
2	大阪府	31,722	○
3	北海道	18,426	○
4	千葉県	15,135	検討中
5	沖縄県	12,713	○
6	京都府	12,229	
7	福岡県	10,230	○
8	静岡県	9,605	
9	神奈川県	9,367	
10	愛知県	9,351	
11	長野県	7,905	○
12	兵庫県	7,849	
13	三重県	5,356	
14	栃木県	5,053	検討中
15	広島県	4,532	○
16	宮城県	4,340	○
17	山梨県	4,155	
18	群馬県	3,753	
19	大分県	3,700	導入予定
20	長崎県	3,594	検討中

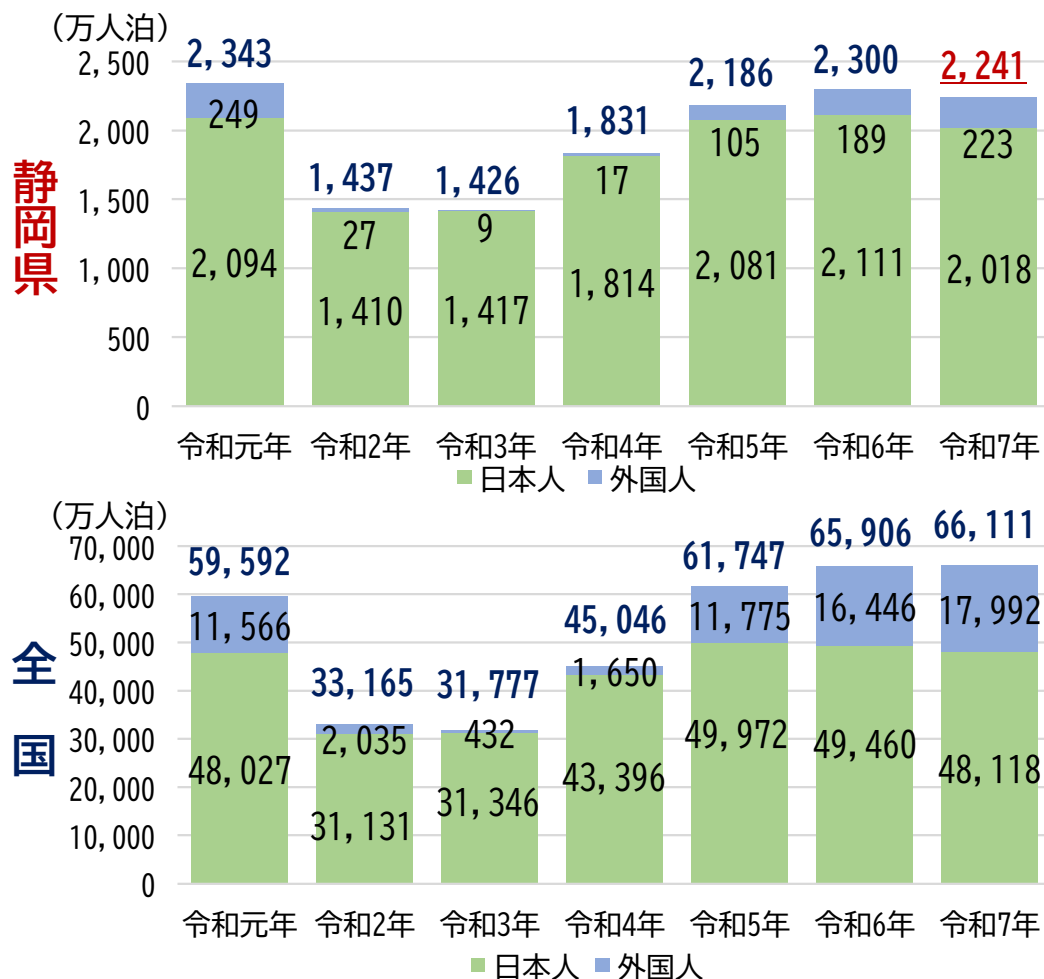
訪日外国人		(億円)	
順位	都道府県	実績	宿泊税
1	東京都	32,867	○
2	大阪府	16,688	○
3	京都府	6,802	
4	福岡県	4,728	○
5	北海道	4,512	○
6	沖縄県	2,892	○
7	千葉県	2,763	検討中
8	愛知県	2,710	
9	神奈川県	2,069	
10	長野県	875	○
11	兵庫県	845	
12	広島県	832	○
13	山梨県	797	
14	静岡県	696	
15	岐阜県	549	
16	宮城県	475	○
17	石川県	446	
18	大分県	443	導入予定
19	奈良県	367	
20	香川県	351	検討中

本県観光の状況と課題（宿泊者数）

- ・ 本県の延べ宿泊者数は、2,241万人泊（前年比97.4%）で全国10位
 - ・ 外国人宿泊者数は、223万人泊（前年比118%）で全国12位、コロナ禍前（2019年）まで戻っていない
- ※外国人宿泊者は、3大都市圏で全体の約7割の消費額を占めており、地方での宿泊が極端に少ない

<課題> ・ 滞在の長期化、消費拡大を一層促進するため、体験型観光コンテンツの更なる磨き上げ
 ・ 周遊を促進するための交通手段（二次交通）の確保・充実が不可欠

全国・静岡県 経年比較



都道府県別（令和7年）

日本人+外国人 (万人泊)				外国人 (万人泊)			
順位	都道府県	実績	宿泊税	順位	都道府県	実績	宿泊税
1	東京都	10,790	○	1	東京都	6,012	○
2	大阪府	5,877	○	2	大阪府	2,452	○
3	北海道	4,650	○	3	京都府	1,829	
4	沖縄県	3,386	○	4	北海道	1,330	○
5	京都府	3,316		5	沖縄県	921	○
6	千葉県	2,824	検討中	6	福岡県	842	○
7	神奈川県	2,679		7	神奈川県	493	
8	福岡県	2,548	○	8	愛知県	486	
9	愛知県	2,275		9	千葉県	438	検討中
10	静岡県	2,241		10	山梨県	275	
11	長野県	1,905	○	11	長野県	251	○
12	兵庫県	1,640		12	静岡県	223	
13	広島県	1,163	○	13	石川県	214	
14	栃木県	1,109	検討中	14	広島県	212	○
15	宮城県	1,042	○	15	岐阜県	200	
16	新潟県	1,021	検討中	16	兵庫県	199	
17	山梨県	994		17	熊本県	176	
18	福島県	960		18	大分県	149	導入予定
19	石川県	952		19	香川県	113	検討中
20	三重県	937		20	宮城県	101	○

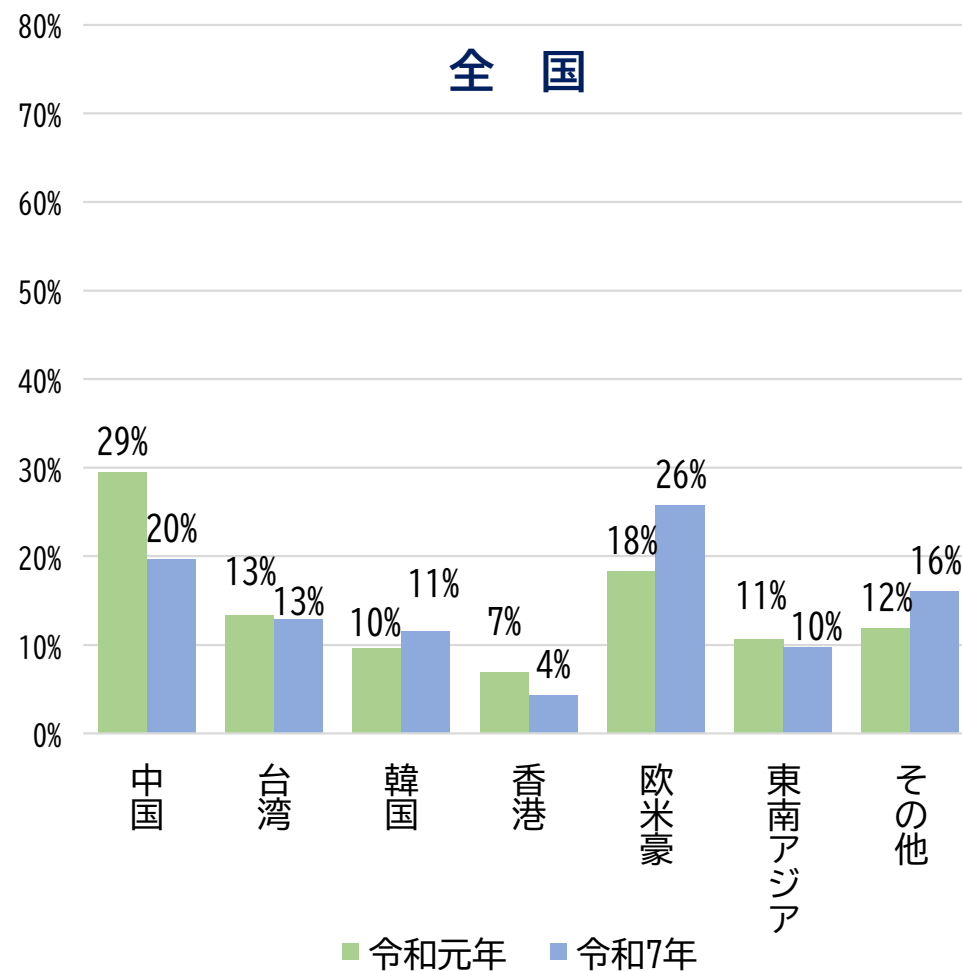
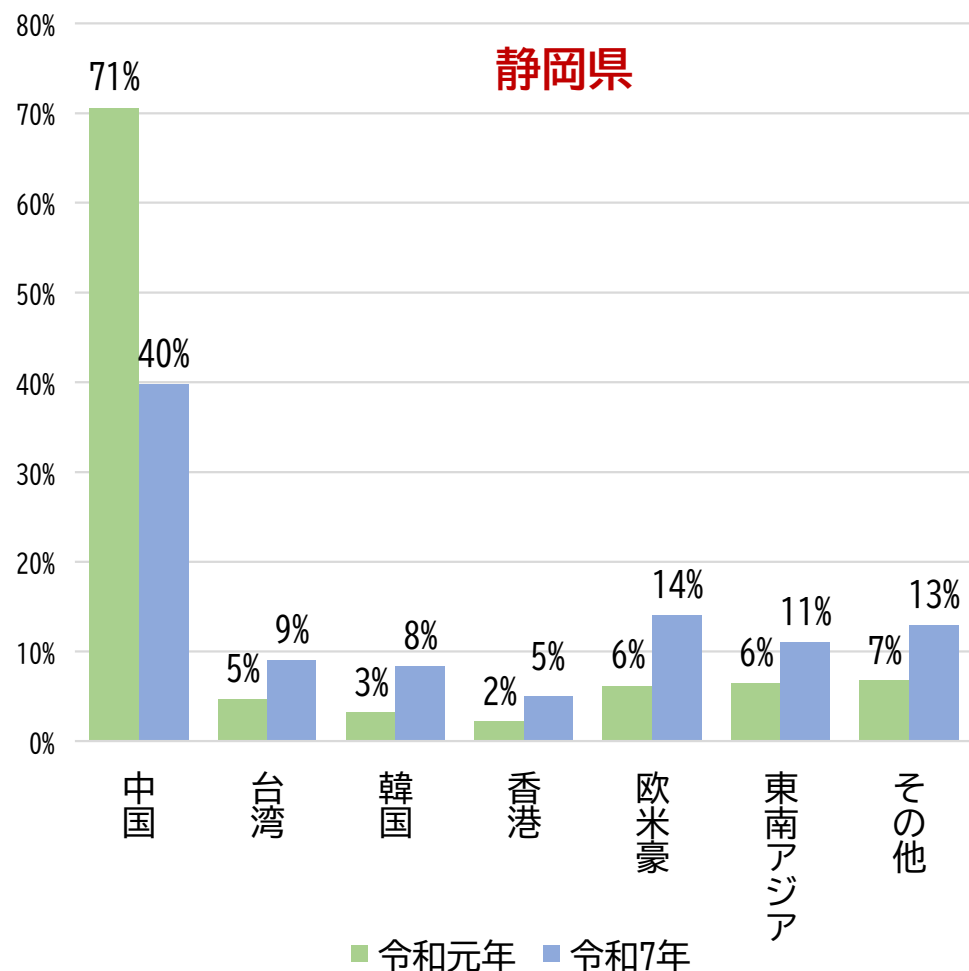
統計調査」を基に静岡県作成

本県観光の状況と課題（外国人宿泊者の国籍）

- ・ 本県の外国人宿泊者は、コロナ禍前(令和元年)に7割以上を占めていた中国市場の割合が減少
- ・ 中国以外の東アジア、欧米豪からの宿泊者は、徐々に増加傾向

<課題> ・ 国際情勢等のリスクに対応するため、様々な国や地域からの誘客が必要
・ 旅行者ニーズの多様化に対応したターゲット層を細分化したプロモーションが必要

外国人宿泊者（国籍別割合）

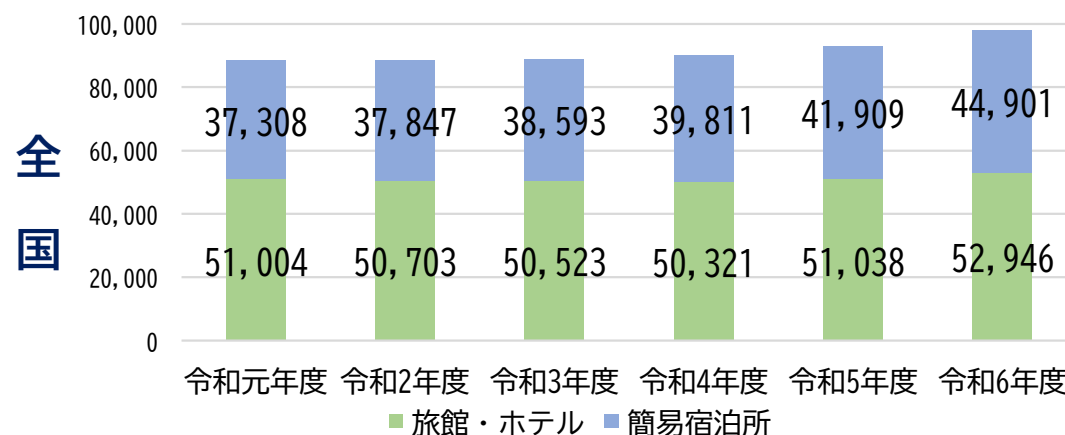
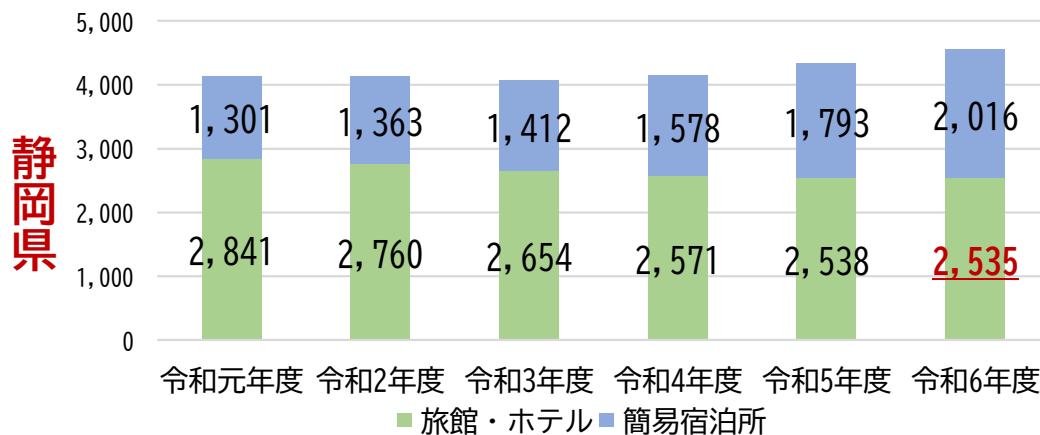


本県観光の状況と課題（客室稼働率等）

- ・本県は、宿泊施設数(ホテル・旅館・簡易宿泊所)は、4,551施設で、全国6位
- ・客室稼働率は、全国平均より低い状況が続いており、令和7年はコロナ禍前の水準を下回っている

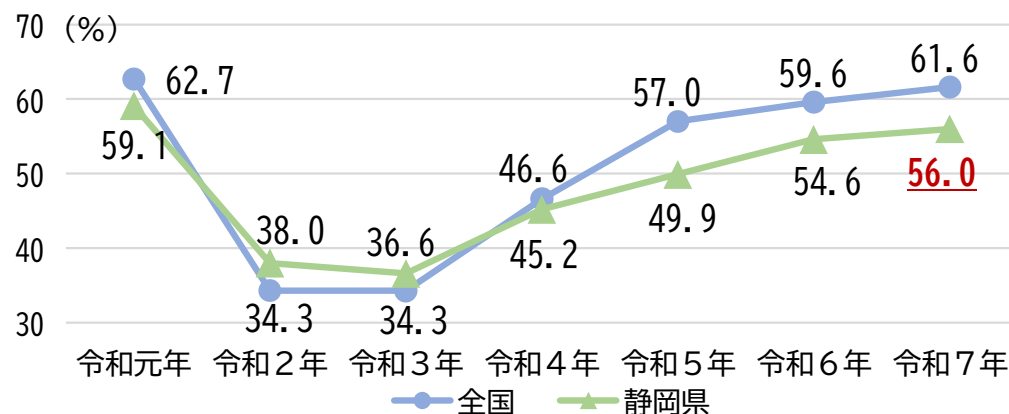
<課題> ・多様なニーズに対応し、宿泊者の満足度を高める受入環境の整備・充実が必要
 ・宿泊施設を含む、地域一体となった観光地の面的な高付加価値化が必要
 ・平日や閑散期の需要喚起策を通じた、宿泊事業者の経営安定化が必要

宿泊施設数



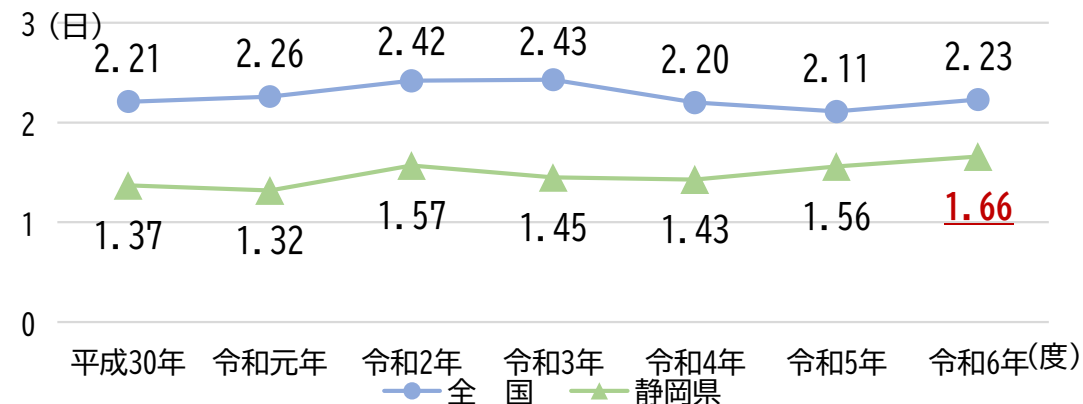
出典：厚生労働省「衛生行政報告例」を基に静岡県作成

客室稼働率



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」を基に静岡県作成

平均宿泊日数

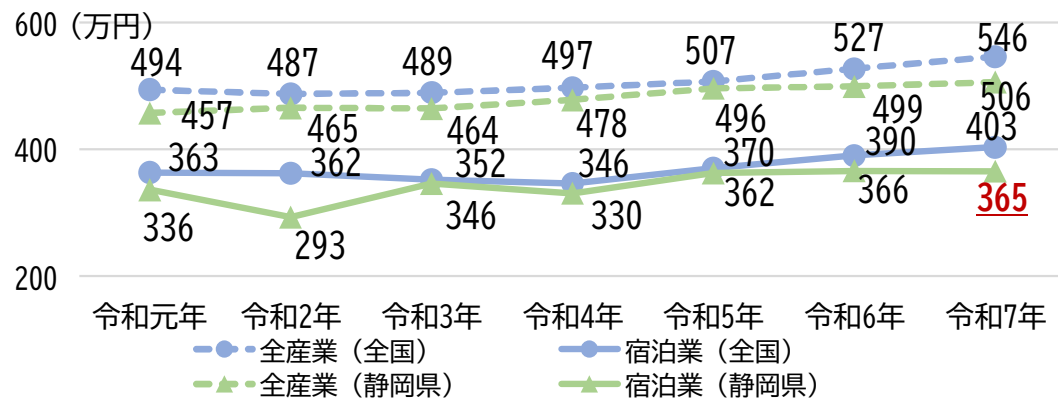


出典：全 国 観光庁「旅行・観光消費動向調査」(年)を基に静岡県作成
 静岡県 静岡県「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」(年度)

本県観光の状況と課題（宿泊事業者の現状）

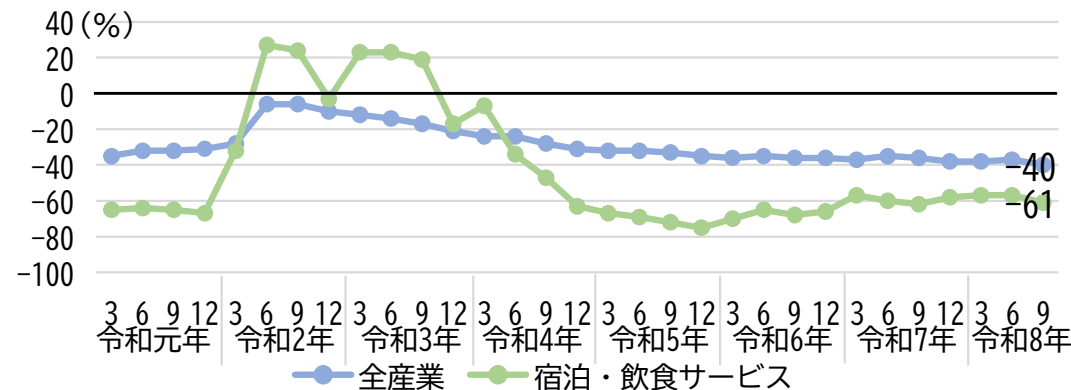
- ・ 宿泊業の賃金水準は、依然として全産業の水準以下であり、観光関連産業の雇用は、人員不足を感じている企業割合が依然として高い
 - ・ 離職率は全産業の水準を大きく上回っており、本県においては全国平均よりも高い
- ＜課題＞
- ・ **観光関連産業における雇用の確保や人材の育成が急務**
 - ・ **生成AIや先進的な技術を活用した省力化や、収益性・生産性の向上、経営効率化に向けた支援が必要**

賃金（年間賃金総支給額）の推移



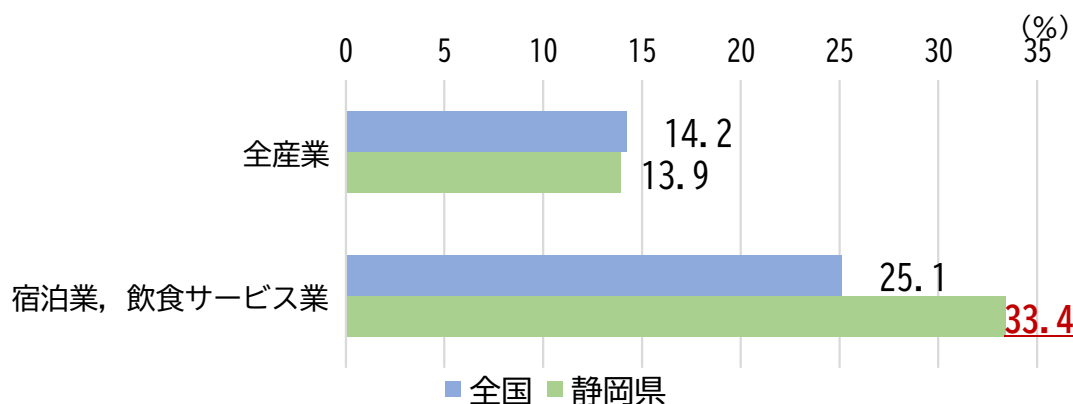
※賃金＝一般労働者の決まって支給する現金給与額×12＋年間賞与その他特別給与額より算出
出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」に基づき静岡県作成

雇用人員判断D. I. の推移



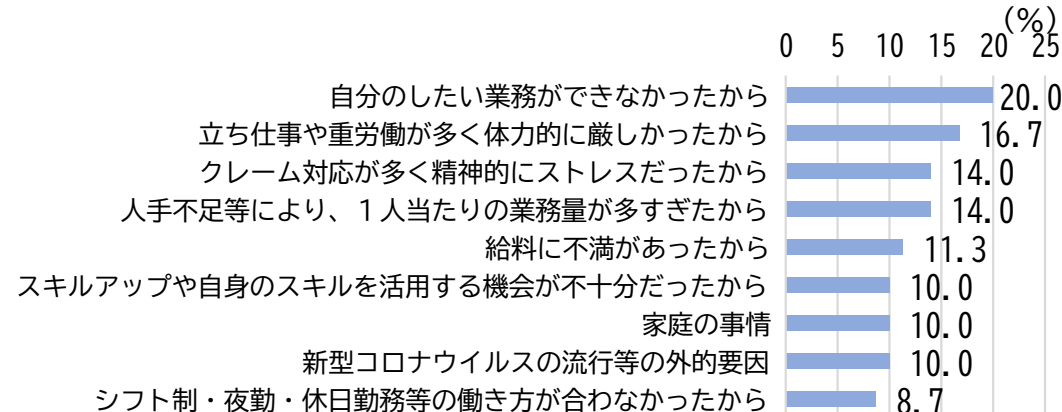
※雇用人員判断D. I.（「過剰」－「不足」）。2026年9月の先行きは2026年6月時点の先行き。
出典：日本銀行「全国企業短期経済観測調査（短観）2026年6月」に基づき静岡県作成

離職率



出典：厚生労働省「2024年 雇用動向調査」に基づき静岡県作成

宿泊業の離職理由



出典：観光庁「令和6年度 宿泊業の人材確保・育成の状況に関する実態調査」に基づき静岡県作成

静岡県観光基本計画（2025年～2028年）

基本理念

「バリューアップ!! しずおか旅」

地域間競争に打ち勝つため、高付加価値旅行の推進、観光産業の基盤強化を通じて、しずおか観光の価値向上（バリューアップ）を図り、地域・住民、事業者、訪れる人の誰もが幸せを感じられるウェルビーイングの視点で、観光地域づくりを進める。

重点戦略

海外

「富士山といえば、しずおか」戦略

「富士山」をしずおか旅のコアバリューとし、「日本＝富士山＝しずおか」の普遍化を目指す



国内

「あなたの“推し”に会える、しずおか」戦略

“推し活”の拠点を目指し、推し活ツーリズムを推進



■基本方針1 高付加価値旅行の推進

地域資源を活用した質の高い観光コンテンツの創出	・高付加価値コンテンツへの磨き上げ ・旅行会社や交通事業者と連携した周遊促進
戦略的なプロモーションの展開	・デジタルマーケティングに基づく情報発信 ・旅行会社等を通じたマーケットへのアプローチ
インバウンドの拡大	・欧米豪等の富裕層市場開拓に向けた取組の加速化 ・スタートアップの知見の活用や広域連携による誘客の強化 ・空・海の玄関口の活用

■基本方針2 観光産業の基盤強化

来訪者の受入環境の充実	・富裕層や高齢者等のニーズに合わせた質の高いサービスの提供 ・観光地の面的なリノベーション・高付加価値化 ほか
観光事業者の活性化	・イノベーションによる新たな観光サービスの創出 ・事業者の生産性向上や経営の効率化の促進、観光人材の確保・育成
観光地域づくり推進体制の強化	・観光デジタル情報プラットフォームの活用 ・市町・DMO・事業者・県民との連携強化 ・観光需要の平準化の促進

新たな観光振興財源の必要性

本県の観光産業の競争力を高め、選ばれ続ける観光地となるためには、

①観光施策の更なる強化・拡充と、②新たな施策の展開が不可欠

①強化・拡充が 必要な施策

●高付加価値旅行の推進

コンテンツの磨き上げ・販売、多様な市場の開拓 ほか

●観光産業の基盤強化

面的な高付加価値化、バリアフリー、人材の確保育成 ほか



②新たに 取り組む施策

●観光業界の環境変化への対応

インバウンドの更なる増加、交通や受入環境の高度化

●社会構造の変化への対応

人口構造、気候変動、テクノロジーの進化、価値観の多様化

安定的かつ継続的に一定規模の財源を新たに確保

強化・拡充が必要な施策

高付加価値旅行の推進

【旅行消費額の伸び悩み】 ※特にインバウンド消費
【旅行者ニーズの多様化への対応】

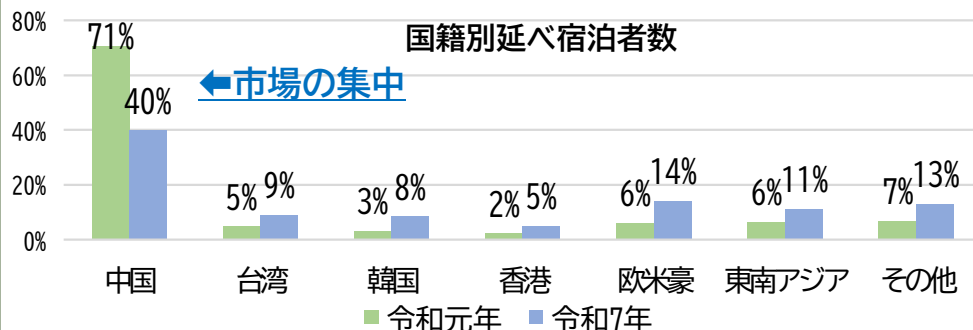
区分	令和元年	令和7年	伸び率
全 国	26.7兆円	36.2兆円	135.6%
静岡県	8,432億円	9,605億円	113.9%

20ポイント
以上の差

- 高付加価値コンテンツ・体験の創出と磨き上げ、販売の拡大
- 消費単価の高い市場・客層へのアプローチ（高齢者、アニメ等）、訪日リピーターの獲得を強化
- 満足度の高い旅行を支えるガイド人材の育成強化

【インバウンドの回復遅れ】

- 多様な市場や旅行ニーズの開拓、需要喚起（欧米豪）
- データに基づくターゲット層を細分化したプロモーション ほか



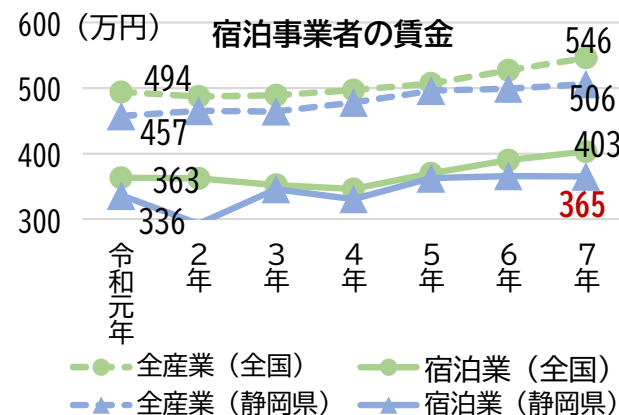
観光産業の基盤強化

【宿泊者の満足度を高める受入環境の整備・充実】

- 観光地の面的な高付加価値化・リノベーション・改修等への支援を強化
- 観光施設等のバリアフリー化・モデル地域 → 県内全域



【雇用確保や人材育成、経営安定化が急務】



- 観光人材の確保・育成
- 事業者の収益性・生産性の向上
 - ・DX支援等を通じた収益力の向上・経営効率化
 - ・省力化に向けた設備投資促進

【地域毎のブランディング、事業者との連携を強化】

- 地域DMOの機能を強化
- 観光分野におけるスタートアップ企業との連携・支援
- 異業種と連携した新たな観光サービスや消費機会の創出



新たに取り組む施策

新たな客層の獲得（富裕層旅行者）

●ビジネスジェット拠点化

富士山静岡空港ビジネスジェット・スカイベース戦略

- ・年間発着回数 8,000回
- ・駐機数 100機

●デジタルノマドの拠点整備

長期滞在による地域消費の拡大やイノベーションの創出

- ・長期滞在に適した環境整備
- ・県内複数地域を周遊する仕組み



ビジネスジェット



スーパーヨット

●スーパーヨット誘致

伊豆半島スーパーヨット誘致構想等により、誘致に向けた営業活動、受入体制の構築

観光DX

●AIの本格活用

- ・データ分析・情報発信
- ・観光案内拠点の充実（AI活用）

●人材や設備の共同利用（セントラルキッチン等）

観光客の利便性・満足度向上

●ストレスフリーな観光の推進

手ぶら観光やキャッシュレス決済の導入促進

●大規模イベントを活用した誘客

国際的スポーツイベント誘致

次世代の観光交通の推進

●空飛ぶクルマの活用

観光の移動手段として導入促進
アクセスの改善、高速移動のメリット

2027年：観光遊覧の実現
2030年：2地点間移動の実現
2035年：サービスの拡大・拡充

●自動運転技術の活用

- ・新幹線駅など、交通結節点からの移動手段の確保
- ・交通空白地域における二次交通の確保 ほか



空飛ぶクルマ



自動運転バス

安全・安心な滞在環境

●将来的なオーバーツーリズムへの対応

●自然災害等への対応

**第1回 静岡県観光振興財源検討委員会では、
以下の点について、御議論をお願いいたします。**

- ◆**静岡県の観光の現状や課題、現行の観光振興施策を踏まえ、今後、必要な施策、取り組むべき施策等について、御意見を申し上げます。**
- ◆**新たな観光振興財源の必要性について、委員の皆様御意見を申し上げます。**